

11
2001.5

薬友会報

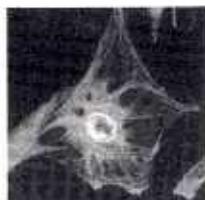
21世紀！千葉大学薬学部は
新たな一步を踏みだします

特集 新大学院！

日本薬学会第122年会
来春 千葉開催！



人工気象室が



千葉大学薬友会



最新の600MHz NMRが



薬物・受容体相互作用解析システムが



そして共焦点レーザー顕微鏡が
薬学研究を推進します。

薬友会会长挨拶	2	クラス通信	7
副学府長挨拶	2	支部だより・亥鼻会・	
退官に際して	3	みのはな山岳会・お知らせ	12・13
新任教授紹介	4	薬友会より	13
日本薬学会第122年会 来春千葉開催	4	学部だより	14
特集（千葉大学大学院医学薬学府 及び薬学研究院）	5	学会賞受賞者・主催学会一覧	14
研究室紹介	6	職員の異動	15
		生涯教育セミナー	16
		編集後記	16

薬友会会长挨拶

五十嵐一衛



運命のいたずらにより、本年度も図らずも薬友会長に留まることになりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

いよいよ21世紀が始まりました。私自身希望と不安が交錯した気持ちで新世紀を迎えました。「希望」は、本年度から新しい大学院大学に生まれ変わり、教育・研究に新しい成果を産み出そうということです。新大学院については後述しますが、教育・研究をより効率良く行うために教育組織（学府）と研究組織（研究院）に分けたことが最も大きい変更点です。

大学院の教育は医学・薬学融合型であり、両者がお互いに切磋琢磨し、社会のニーズに合った学生を育てようということです。研究組織は薬学研究院と医学研究院が別々ですが、これまで以上に医学研究院との交流を深め、研究の質の向上を目指します。これからも試行錯誤の繰り返しだけですが、一応ソフト面が整備されましたので、今後は老朽化した校舎の新設を亥鼻地区で目指します。亥鼻地区でかつて学んだ諸先輩にとって嬉しい知らせと存じます。生命科学分野の三学部（薬学部・医学部・看護学部）が同じキャンパスに一堂に会するメリットは計り知れないと思います。一方、「不安」は、科学の進歩の早さに人間の心が追いついていけない状況が発生している気がしてならないことです。学部教育の中に、形はどうあれ“心”的教育を導入すべきではないかと思考する今日この頃です。

会員の皆様の御支援を切にお願い申し上げます。

副学府長挨拶

鈴木 和夫



2001年4月から千葉大学薬学部は新たな一步を越えました。医学部とともに大学院を主体とする新たな教育・研究組織とし、健康と医療を指向した高度の専門教育と、先端の研究を目指すこととなりました。この新たな組織では教育には、研究組織である薬学研究院および医学研究院とは分離した医学薬学府という組織であることになります。医学薬学府には、4年制博士課程に3専攻と後期3年制博士課程に1専攻、さらに分離された薬学修士課程に2専攻が置かれています。

大学院における学生の研究指導は研究院に所属する各研究室が担当することとなります。高度の専門教育を標榜する教育は学府が担います。従来の組織で研究科長、大学院教務委員長と入試委員長が所掌していた大学院教育を、ともに分担することになります。薬学と医学から学府長と副学府長を2年間交互に選出してこの任に当たりますが、最初の副学府長となりました。新たな組織における最初の役割にはその目的のための初期設定とその始動が要求され、その後のあり方に影響を及ぼします。薬学部の6年制化という薬学固有の大きな改革が選ばれるかという時期であり、さらに、それに先立って起こることが確実視されてきた独立行政法人化という国立大学の大改革も考慮に入れなければなりません。これらの上に立って医学と共同の教育という事業を考えると、大変な重責です。その任を果たすため、最大の努力をしたいと思います。



新大学院設置記念パーティーにて

退官に際して



薬品物理化学研究室

津田 穣

私は、学生の頃から自然 Nature の法則性に特に深い関心があり、AIN-SHUTAIN の古典力学、朝永振一郎の量子力学、等の作品に親しみました。特に朝永先生の量子力学に出あつたことが、その後の私の人生を決めたようにおもいます。私の学生の頃には、これらの学問は薬学部の課程に、全くありませんでしたが、1969年から一年間、アメリカの California Institute of Technology で、量子力学だけをじっくりと学ぶ機会を得ました。それ以後、30年以上に亘る、量子力学を薬学や表面物理学、物質科学へ適用する研究を経て、自然科学とは「人間が、人間の理解できる言葉で自然を記述した物語である」と、考えるようになりました。物語が矛盾なく完結するためには公理が必要です。量子力学の公理は、「自然を観測したときに得られる測定値は、量子力学の基礎方程式の解である固有値にかぎられる」すなわち、正しい測定値は常に予測できると言うことです。

1971年、千葉大学大学院修士課程に薬品物理化学講座が発足するにあたり、私は、三宅教授からお誘いをうけ、物理化学研究室の立ち上げに参加しました。以来、30年の永きにわたって薬品物理化学研究室で多くの学生の皆さんと、量子力学の薬学、表面物理学、物質科学への適用を試みる研究を楽しく行ってまいりました。その中から、笈川助教授、畠助手、星野講師の三人は、教員として研究室の運営にも参加してくださいました。大学は、研究費が少なく、薬学で最も重要なテーマである生命の問題に本格的に取り組めるようになったのは9年前に薬物-受容体相互解析用コンピュータシステムが1億2,000万円の特別予算で導入されて以来のことです。

顧みますと、私は通商産業省東京工業試験所の時代をもあわせ、約43年間を自然科学の研究にのみ没頭することができまして、本当に幸せであったと思います。この幸せは、先輩・同僚研究者の方々、学生諸君、研究支援の事務の方々の温かいご協力によって支えられたものであり、改めて、皆様に厚く御礼を申し上げる次第です。



薬品合成化学研究室

中川 昌子

私は本年3月末をもって本学を停年退職することになりました。昭和43年5月より千葉大学薬学部に赴任して以来講師、助教授、そして教授として研究と教育に全力投球している間に33年と云う長きに渡る日々がまるで一瞬の出来事であったかのように過ぎ去ってしまいました。

この間に日野 享千葉大学名誉教授をはじめ実に多くの方々のご指導やご鞭撻を頂き、またいろいろとお世話になりました。

大勢の良き師そして良き友に恵まれて過ぎていった33年間は振り返れば楽しく幸せな、そして毎日毎日が新しく感じられエクサイティングな日々の連続がありました。また幸運なことに多くの優れた共同研究者にも恵まれて研究の幅が広がったことも、また千葉大学では薬学部の先生方のみならず、他学部の多くの先生方の暖かいご支援を得られたことを幸せに思い、心より感謝いたしております。

赴任当時はまだ100MHzのNMRさえなかった時代でしたが、その後の坂井進一郎千葉大学名誉教授をはじめとする諸先生がたのご努力によって分析センターが設立され、次々に新しい機械が入って研究が飛躍的に向上したことにもなつかしい思い出となっております。

有機化学の研究はまだまだ未解決の問題が多く残されております。特に天然物の合成は試行錯誤を重ねながら苦しむことの方が多い、苦楽を共にするというよりも苦のみを共にしてきたと表現するほうが適切かも知れません。しかしこの長きにわたり私と共に研究を続けてくれた研究室の方々と学生は私の誇りとする所であり、一生忘れる事はないでしょう。心から感謝して止みません。

最後に千葉大学薬学部のますますのご発展をそして皆々様の益々のご活躍とご多幸をお祈りし、退官の辞とさせていただきます。33年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

新任教授紹介

高齢者薬剤学研究室



上野 光一（昭和47年千葉大学薬学部卒業、昭和49年千葉大学大学院薬学研究科修士課程修了）

千葉大学大学院薬学研究院設置に伴い、この度新設されました薬物作用研究部門高齢者薬物学講座「高齢者薬剤学研究室」を4月1日から担当することになりました。浅学非才の身にとりましては余りに責任が重すぎますが、ともかくも医療薬学の発展のために粉骨碎身微力を尽くす所存であります。私自身はこれまで薬品化学研究室、薬物学研究室並びに薬物治療学研究室において原田正敏教授、北川晴雄教授、佐藤哲男教授、千葉一寛教授、矢野眞吾教授の下で、各先生方のご専門領域の薬理学、薬物代謝学、毒性学、臨床薬理学、薬物治療学はもとより、哲学や人間学など教育・研究にとって重要な多くの事柄を学ばせていただきました。新講座ではこれまでの幾多の経験を踏まえ、高齢者薬剤学が薬学の中で確固たる学問領域となるよう教育・研究に邁進したいと考えております。今後とも、卒業生の皆様方のご指導並びにご支援を頂けますよう、何とぞ宜しくお願ひ申し上げます。

薬品合成化学研究室



西田 篤司（昭和52年北海道大学薬学部卒、昭和54年北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了）

この度、日野、中川両先生の築かれた伝統ある薬品合成化学研究室の教授を仰せつかりました西田篤司と申します。私は昭和29年の北海道生まれです。これまで4ヶ所の大学で研究・教育に携わって来ましたが、平成8年4月より中川先生のもとで、助教授として千葉大学のお世話になって参りました。

私の学生時代には考えもしなかったポストゲノムの時代が到来し、生命科学がさらにわかりやすくなるように感じております。それにともない、有機化学や有機合成の果たす役割はどんどん広がっております。全合成から創薬先導化合物の探索まで支離滅裂にならぬ程度に幅広く研究し、世界に発信できる元気な研究室を目指して優秀な学生達とともに頑張りたいと思います。薬学部も大きく変わろうとしていますが、今後とも薬友会会員の皆様の御支援をお願い申し上げます。

日本薬学会第122年会来春千葉開催

日本薬学会第122年会が2002年（平成14年）3月26日（火）より28日（木）まで千葉大学薬学研究院が担当して開催されることとなりました。前回の千葉での開催は106年会（1986年）でしたから16年ぶりとなります。組織委員会（五十嵐一衛委員長）はすでに昨年発足しており、幕張メッセ（国際会議場、新展示場）および幕張プリンスホテル（プリンスホール）の会場予約、外国人特別講演者の依頼など準備は順調に進められています。最近の薬学会年会の特徴は、一般発表が全てポスター発表であること、研究分野の分け方が工夫されていることや、30~40のシンポジウムが行わ

れることなどです。

今回は、東京ドームのグラウンド程の広い展示場を確保することができたため、ポスター、機器展示が1会場で行われます。また、全ての会場が徒歩で移動可能であり、海浜幕張駅からも近いことから参加者にとって、大変効率的かつ有意義な学会となるでしょう。最近は薬学会の参加者数が減少傾向にあるとのことで、心配しておりますが少なくとも8,500名の参加者を確保できるよう、これからいろいろな企画を考える予定です。ご意見などは、e-Mail:nenkai@p.chiba-u.ac.jpへお寄せ下さい。



千葉大学大学院医学薬学府及び 薬学研究院

本年度4月から大学院が新しく生まれ変わりました。その目的は、科学の更なる飛躍的発展が予想される21世紀に、国際的・先端的研究を担う創造的な研究者の養成を目指すものです。このために教育組織と研究組織を分離し、新たに大学院教育組織としての医学薬学府と大学院研究組織としての医学研究院・薬学研究院を設立しました。教育組織と研究組織を分離することにより、医学薬学府では医学研究院と薬学研究院に所属する教官がそれぞれの専門に応じて教育を担当することで、適材適所の人選が可能になりました。これにより、21世紀の社会的要請の強い医学薬学境界領域型の学問に精通した人材、すなわち高齢化社会に対応するための高齢科学を専門とする人材、環境ホルモン等生殖細胞系列つまり子孫への影響を科学する専門家、遺伝子医療など高度な医療を支援する人材の育成が可能になると考えています。

新しい医学薬学府では、修士課程の定員が41名から67名、薬学系博士課程の定員が17名から32名となり、充実が計られました。修士課程はこれまで通り総合薬品科学と医療薬学の2専攻ですが、博士課程は3年コース（創薬生命科学専攻）と4年コース（環境健康科学専攻・先進医療科学専攻・先端生命科学専攻）となり、3年コースの学位は薬学、4年コースの学位は医薬学となります。新しく作られた博士（医薬学）号を取得する人は、これまで日本では比較的遅れている治験を含む医薬品開発の分野でも活躍できるように、医学・薬学の両分野の幅広い知識の修得が可能なカリキュラムとなっています。医薬学という学位が社会にとって有用であり、この学位を有する人は医学薬学境界領域で活躍する人材であるということを一日も早く社会に認識されるよう、努力しなければならないと思っています。

薬学研究院は教官が所属する組織であり、3部門（環境生命科学研究部門・薬物作用研究部門・分子創薬科学研究部門）、9講座から成り立っており、その時代の要請に従い再編が可能な組織となっています。教官が大学院に所属する大学は大学院大学と呼称され、教育だけでなく研究においても世界をリードする展開が求められています。一方、学部教育も大学院教育と同様に医学研究院の教官にも協力を求め、従来より医療に関して充実した幅広い教育が可能になると考えています。

このように大学院の教育組織と研究組織を分離させた大学はまだ全国で2、3を数えるのみで、全国の大学関係者がその行く末を注視しております。“仏作って魂入れず”にならないように、新しい大学院制度を充実したものにしていきたいと思いますので、会員の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。 (文責 五十嵐)

千葉大学大学院医学薬学府および医学研究院・薬学研究院の全体図



研究室紹介

薬品製造学研究室



ミレニアム同窓会にて

平成13年度の薬品製造学研究室は、石川 勉（教授）、渡邊敏子（助教授）、熊本卓哉（助手：ベルギーに留学予定）の3名の職員に加え、大学院学生10名（博士後期課程2年：1名、博士前期課程2年：3名（中国留学生1名）、博士前期課程1年：6名（タイ留学生1名）、4年生5名、外国人研究生1名（10月から1名）で構成されています。

研究室では、「研究室からくすりを」を目指して、全合成、反応、活性物質探索等、有機化学的多角度から常にチャレンジ精神を持って研究に取り組んでおります。研究室の研究環境は、恵まれているとは言えませんが、それぞれ皆が頑張って、十分に誇れる成果をあげております。昨年暮には、「ミレニアム同窓会」を企画しました。その目的は、世紀の区切りとして研究室の「研究の流れ」をまとめ、その中で卒業生や在校生の研究の位置を認識してもらうことでした。次は何年後になるか判りませんが、研究室のアクティビティをさらに上げ、またこのような同窓会が企画出来ればと思っております。

研究室レベルでの大学院を含む学生さんに対する教員の第一義的職務は、研究を通しての教育でしょう。私は、教育とはサービスと考えており、彼らと何時でも対応出来るように、可能な限り朝は早く、そして夜は遅くまでという姿勢で望んでおります。そして製造研究室では、教授室も含め各部屋は常にドアを開放し（一階のため、冬はまるで低温室ですが）、自由にディスカスできる状態にしております。「皆がバッティーに」をモットーに、アットホームな中にも研究には厳しく、各自ステップアップをするよう努力しております。よろしければ、ホームページ（<http://www.p.chiba-u.ac.jp/lab/seizou>）をご覧下さい。

（石川 勉）

薬物学研究室



薬物学研究室は、教授千葉 寛、助教授細川正清、助手小林カオルの3名のスタッフと博士後期課程学生3名、博士前期課程学生8名、4年生5名、研究生2名の総勢21名で現在構成されています。本研究室ではこれまで薬物代謝を主要な研究領域にしてきましたが、最近、新たな研究領域である薬理ゲノム学（Pharmacogenomics）への展開をはかりつつあります。薬理ゲノム学はこの数年間に急速に進展してきた領域で、薬の効果や副作用発現の個人差をゲノムレベルで解明し、創薬や臨床での適正使用しようとするものです。最近オーダーメイド医療やゲノム創薬という言葉をよく耳にしますが、21世紀の薬物治療は、患者の遺伝子情報からそれぞの患者に見合った薬の選択と投与量の設定を行うようになると言われています。薬理ゲノム学はその中心的な役割を果たす領域で、本研究室ではこれまで研究対象としてきた薬物代謝酵素に加え、トランスポーター、受容体など、薬物が効果や副作用を発現する過程で関係する薬物代謝酵素以外の遺伝子にも研究対象を広げつつあります。将来的には副作用の原因となる遺伝子と SNP (Single nucleotide polymorphism) の探索を主なターゲットとし、オーダーメイド医療に向けての基盤づくりを行っていきたいと考えています。

最後に、薬物学研究室は重点化に伴い千葉大学大学院・薬学研究院・薬物作用研究部門・遺伝子薬物学講座に属することになりましたが、研究室の体制はこれまでどおりです。また、助手の小林は7月から一年間の予定で米国の NIEHS/NIH に留学が決まりました。

（千葉 寛）

クラス通信

昭和9年卒業（昭九会）

卒業は昭和九年、早や半世紀を越えて69年となる。そして皆、米寿に近くなり、既に米寿を越えて健在の方もおられる。それなのに、今年も亦、畏友を一人失った。阪神の大震災も乗り越えた渡辺昇君の訃を知らされたのは松も取れた頃、ご子息のお葉書で。謹んで哀悼の意を表する次第である。お互いに年賀状の交換をしているが、2001年には賀状をいただけない友が2、3人いるので一寸心配である。

薬専に入学した時は50人だったのが、現存は9名となつた現在である。クラス会を開こうとは思っているものの、なかなか思うようにならないので、まだまだ歩けるうちに訪ねてみようかなどと考えている始末である。元気の君よ、便りを下さい!!（中村 晃哉）

昭和14年卒業

平成12年8月26日、山浦氏の御厚意により、同氏のビル7F屋上から、隅田川の花火を楽しむ。ミニクラス会を急速開いた。夫婦同伴で参加された2組もあり、せいたくな夜空の花火を存分に楽しみました。

会を開けば、14～5名は必ず集つた、吾がクラスも、集りにくくなつた。これからは、何かにつけて集まる様にしたい。在京・地方を合わせて、18名、とにかくお互いに元気で過ごしてゆく様に、はげましあっています。（福神 益夫）

昭和15年卒業（二六会）

1940年・辰に巣立つた二六会員の上にも新世紀最初の巳年が来た。が、会員は17名に減少した。六十年前

の卒論じみた宿題は、医薬分業であった。医師の資格は処方箋まで、と主張したが、現在もその域に達していない。医薬分業が走りだしたが「爆発力」に欠けた。諸兄の夢は成りましたか？さて千年後を独断すると、IT活用施設を完備し、それを駆使できる調剤型薬局が主流を占めているだろう。制限字数になった。過去の主張が頭鈴尾にならぬことを願う。

（石丸 正美）

昭和16年3月卒業（一葉会）

戦死や逝去で現在会員20名。去年の例会は12月5日、日本美術院発祥の地、北茨城市の五浦観光ホテル別館大観荘において、大沼夫妻、稲澤、大石、木俣、小林、重久、向井、海老澤9名が宿泊して実施す。

（海老澤 賢一郎）



昭和16年12月卒業（宣葉会）

20世紀最後のクラス会を昨年5月に信州で開催、巣山君のお世話を海東、君塚、国友、西口、三田、安田の7名参集、10月には日本橋で林和夫君など4名集り、



Quality & Technology
人と社会のより良い明日のために



岩城製薬株式会社

〒103-8434 東京都中央区日本橋本町4丁目8番2号
TEL:03-3241-2070(代)

Cobridge

薬事申請の
お手伝いをいたします。

株式会社 コーブリッジ
Cobridge Co., Ltd.

〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-12 K'Sビル8階
TEL:03-3811-7337 FAX:03-3811-6813
URL:<http://www.cobridge.com>

今年は卒業から60周年なので、思い出の千葉市での開催を古山、国友君にお願いする事とした。現在18名健在、21世紀も元気でまたお会いしましょう。

(安田 英夫)

昭和17年9月卒業（翠葉会）

昭和十七年九月が我がクラスの卒業でした。

苦難の時代を見送った、新世纪は我が友も十八名になってしまいました。昨年六月四日、浦和のホテル内「彩湖」に十名が集い、関東平野を眺望して故人を偲び、お互いの健勝を称え往事を偲びました。出席は新井、恵志、小幡、田中、戸村、中島、中村、松家、丸山、堤の十名でした。

(堤 保二郎)



昭和20年卒業（るつぼ会）

平成12年6月3日、懸案の一泊るつぼ会を熱海つるやホテルで開催。出席16名（内日帰り2名）。和定食とバイキングミックスの夕食後、自室で余裕ある時間を歓談に花を咲かせ、翌日は好天の事とて有志でMOA美術館に赴き、美術観賞の時を過ごしました。尚、年末に牧野純夫君の訃報に接しました。ご冥福をお祈り致します。

(吉田 富佐夫)



昭和23年卒業

恒例のクラス会を平成12年11月11日に新橋「新橋亭」で開催。今年は病欠者が多く昨年より4名少ない15名の出席であったが、3時間程ゆっくり歓談する事が出来た。二次会は神楽坂。

今年の目玉は館山の吉川貴司君、十数年振りに元気

な姿を見てくれた。反面ここ2~3年我々のクラスでは物故者が続き、前回報告後も宮城の笠森章太郎君と石巻の岡部（鶴岡）三郎君があいついで逝去。淋しい限りである。「合掌」

20世紀の生残りは21世紀も少しでも長く頑張ろう。

〔出席者氏名〕

青柳舜三、青柳高明、井上富夫、植草茂男、大塚亨、小沢博義、杉本珪之助、中西安治、古川和男、古橋隆宏、三浦清、皆川忠義、安井恒男、吉川貴司、渡部吉郎

(三浦 清)



昭和24年卒業

例年開催されているこの組のクラス会が、平成12年は10月18日に千葉県館山市西崎海岸の民宿伝平で開催されました。出席者13名は、久闊を叙し、地元で獲れたばかりの魚に舌鼓を打ち、気持ち良く酔って遅くまで語り合いました。平成13年は4月に埼玉県の肝いりで長瀬で開催されます。

(峰島 智)



厚生労働大臣許可 11-03-△-0002
社団法人 埼玉県薬剤師会
薬剤師無料職業紹介所

登録受付日：月～金曜日（ただし、祝日・年末年始を除く）

受付時間：9:30～11:30及び13:00～16:00

〒330-8631 埼玉県さいたま市土呂町1丁目50番地4

TEL 048-653-5261

FAX 048-652-6060

<http://www.saiyaku.or.jp>

昭和25年卒業（亥の鼻会）

卒業後50周年を記念して伊豆稻取・銀水荘にて同級会を開催しました。出席者は幹事予想の半数8名でした。亥の鼻時代の逸話や思い出話が懐かしく、楽しい一刻を過ごしました。

卒業時36名のクラスメートが現在23名（音信不明2名含む）、残念ながら13人が鬼籍に移りました。お互いに古稀を越え喜寿を迎える年齢ですが、元気な姿での毎年の出会いを約束し、乾杯を致しました。次回会合は、全員が参加しやすい東京で開催予定です。

（勝又 敏雄）

昭和26年卒業（みのはな会）

古稀を迎えて、今回2月17日に竹内兄が、病に倒れました。ガン、急性肺炎等で、急逝される老人が多い今日此頃、お互いに健康に留意が肝要。今年は卒後50年目の節目の年、50年間の医薬品業界の変革、発展の中で活躍した日々を想起してお互いの無事を確認したいと、今年も例会を、4月11日熱海で開催するので、奮って参加を期待します。

（福島 靖）

昭和29年卒業

29年卒のクラス会を平成12年9月9日に行いました。会場は、恒例の「安具楽・五合庵」（ライオン銀座7丁目店）で、総勢16名（夏目、伊藤、道広、山脇、遠田、山本、横井、本多、佐藤、千代、比留間（知）、村松、早川、今野、久保田、比留間（和））が参加し、暖やかに近況報告をし合い、思い出話に楽しい一時を過ごしました。特に今回は、山脇君が福島から道子夫人と一緒に出席されました。

お互い元気で再会することを約して、散会しました。

（比留間 和夫）

昭和31年卒業（千葉薬三一会）

2000年のクラス会は、5月24日に能登の和倉温泉で開催された。さらに、金沢を訪ね加賀百万石の文化を研究した。21世紀に向かってのゲノム科学の進歩、コンピューターや携帯電話の応用についても有意義な討論が交わされた。2001年には、奈良の都を訪ね、日本における薬学のルーツを勉強する予定である。千葉大学薬学部の21世紀における発展を期待している。

（星 昭夫）

昭和32年卒業（さんに会）

21世紀最初の年、今夏、地方開催のクラス会第2弾（初回は一昨年の能登和倉温泉）として北海道層雲峠温泉で集いをもちます。ほぼ全員が宮仕えを終えたところで、パートナー共々の参加を呼びかけています。

天国に行ってしまった人もいますが、どうやらガン年齢に入ったようで、体にメスを入れる者もボツボツ増えて来ました。年一回の検診をうったえます。

（小尾 陞）

昭和33年卒業

恒例の年1回のクラス会を平成12年4月1日（土）に千代田区一番町の福岡会館で行いました。参加者は30人（うち女性9人）でした。幹事の意図としては、都心の満開の桜（英國大使館～千鳥が淵公園～靖国神社）を楽しんでもらいたかったのですが、昨年はなぜか桜の開花が遅く二部咲き位だったのが心残りでした。しかし、会は盛り上がり二次会も20人以上の方が参加され、福岡から参加の1君に四次会まで付き合わされた方があると聞いております。

（石井 靖男）

昭和34年卒業

毎年恒例のクラス会が2000年6月に東京・湯島で開かれ18名が参加した。皆元気いっぱいそれぞれの第3

「ケア」と「キュア」。
新しい時代には、
新しい健康づくりで。

care
&
cure

CARE [keə] n. 世話、保護、advise...の質問をする...を大變にする...を心配する、気をもむ、擔心する
cure [kjoo̯r] n. 治癒、治療 (法) 事...を(病気を)治す、治療する



三共株式会社
<http://www.sankyo.co.jp>

技術は人にあたたかい

MEDICAL FRONTIERS



大正製薬

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1
インターネットホームページ <http://www.taisho.co.jp>

の人生に踏み出していたが、薬剤師免許証のほこりを
払って活用している者が目立っていた。関東と北海道
から沖縄までの他府県在住者所在地とで交互にクラス
会を開いてきたが、本年の神戸を最後に他府県在住者
が一巡することになる。母校の教授を務めた赤尾君が
2000年春に退官し、津田君が本年春退官となる。ご苦
労様でございました。

(武田 豊彦)

昭和35年卒業（珊瑚会）

二千二月十八日、一行十六名は二泊三日の沖縄旅
行へと出発した。到着日はクラス会の後第二次会まで、
沖縄在住の金井さんからの泡盛に盃を傾け、夜の更け
るのも忘れ歓談。二日目は貸し切りの観光バスで東南
植物楽園、巨大なシンベイザメなどを観光後、琉球料理
と古酒に酔いつつ琉球舞踊を鑑賞した。最終日は首
里城、ひめゆりの塔などを見学し、改めて戦争の悲惨
さを痛感したが、卒後四十周年に相応しい実りのある
クラス会であった。

(前田 孝)



昭和36年卒業（36会）

平成12年5月、クラス会への参加は卒業後はじめて
という沖縄の大城さんも含めて16名が郡上八幡への1
泊旅行にいきました。名古屋で坂口悦生さんと昼食を
共にした後、「備前屋」に到着。夕食時はにぎやかに
話がはずみました。翌日は水と緑の美しい町中を皆で
ゆっくり散策し、昔に戻ったような楽しいひとときを
過ごしました。

(森崎 尚子)



昭和37年卒業

今年は隔年のクラス会開催年となります。卒後40周

年を迎える今回は一泊旅行の案もありましたが、より多く
のクレスメートの参加を考慮して日帰りの会合を企
画しました。5月26日（土）に幕張プリンスホテルで
開催予定です（クラス会幹事 池田守男・愛子）。前
回はクラス半数の参加がありましたが、より多数の参
加を期待しています。

（澤井 哲夫）

昭和38年卒業

二十一世紀も明けて早々の二月十日、十一日、茨城
県大洗にて同窓会を催しました。

今回は、はるばる沖縄より上原正徳さんも参加され、
卒業以来はじめてお目にかかる方も多く、感激の対面
となりました。茨城名物の“あんこう鍋”をということで、
寒い時期の上、遠方にもかかわらず、二十人とい
う多数の参加を得、例によって、夜遅くまで、昔話
に花をさせました。翌日はバスにて小旅行。先ず水
戸偕楽園にて、チラホラ咲きそめた梅を愛でつつのん
びり散策、次いで笠間に向い、お稲荷さんで手を合わ
せ、陶芸美術館を見学。陶の小道をのぞき、と、天気
にもめぐまれ、楽しい一日となりました。次回は松永
さんの故郷群馬での再会を約し、散会となりました。

（高橋 滋子）



昭和39年卒業

数年前に、「次は岐阜で鶴鳴を見ながらクラス会を
しましょう。」なんて大見得を切りましたが、係の怠
慢で何となくざるざるしているうちに、目指すホテル
が廃業になってしまいました。このクラスは、五十嵐
一衛、坂井和男、藤本治宏各氏が大学にいるのですが、
さらりとした関係を好む人が多いようで、あんまり会
合をしていません。来年3月には、全員が還暦をすぎ
ますから、毎日が日曜日という人も多くなります。そ
こで、同級の皆さん、岐阜が遠ければ、熱海や箱根
で開きますから、会費のへそくりとまだ現役を続ける
人は日程の調整を頼みます。

（今泉 純子）

昭和41年卒業

41年卒クラス会は、リストラの波にも屈せず、鎌倉への1泊旅行、新宿でのカラオケ大会など、毎回半数を超える参加者で賑やかに開催され、本年6月には35周年記念行事として学舎の地“亥の鼻”を訪ね、房総に1泊する会を企画しております。医療の世界はまさにゲノム時代へと変貌を遂げつつありますが、我が41年同期生は、時の刻みを忘れ“珠玉の青春”を語りそして取り返す恰好の機会との認識で、喜悦を共有化しております。

乞発展“千葉大学薬学部、薬友会”

(小野 健司)

昭和46年卒業

本年3月で卒後30年を数えた。先号の永井氏の提言を発起として、我々の半生を託した20世紀を振り返るべく昨年10月に、製薬化学科・薬学科合同では9年ぶりとなる同窓会を開催した。製薬20名、薬学15名参加。さすがに、参加者の容貌には30年の年輪が認められたが、子離れ世代になった女性陣の管理薬剤師としての社会復帰と意気軒昂さが際立った。欠席者の多かった薬学科の男性陣(野郎会)はこれに負けじと、恒例の一泊ではなく宴席形式としての新世紀発会を2月に五反田で開いたが、今後の活動方針を決める予定もそっちのけで、美味しい秋田料理と地酒、カラオケに時を忘れ、様々な領域に活躍する仲間を確認しあった次第であった。

(下川 正和)

昭和47年卒業

本年2月16日、薬品合成化学研究室 中川昌子教授の最終講義に出席するため久し振りに千葉大学を訪れた。学生時代通い慣れた車窓の景色の様変わりに驚かされたが、稻毛から西千葉駅に近づくにつれ、昔の記憶が蘇る路並木・大学構内の木立が目に入り安らぎを

覚えた。薬学部校舎はその前に聳える建物と対比なし、長い歳月の刻印が印象的であった。構内の「けやき会館」で最終講義を拝聴し、今さらながら時の流れをひしひし感じた。

(川島 恒男)

昭和51年卒業

2000年11月23日東京駅丸ルビーホールにて、クラス会が開かれ、35名の方が集まりました。いつもの顔ぶれの他にも新しいお顔が加わり、大変嬉しい会でした。薬局で勤め始めた方、高校の先生になられた方、本を出版された方、三足のわらじをはいている方等、皆様の近況報告を順番にお聞きし、とても楽しい会でした。

(石塚 八栄子)



昭和55年卒業

皆さん、お元気ですか？私は、年末に女の子が産まれ、生まれて初めて産休というものをとっています。以前、日野(旧姓原)さんが出産したときは「日野さん、やるなあ」と感心したものでしたが、今や日野さんの子供ももう5才、自分が今ごろになって出産するとは本当にびっくりです。初めてのことに遭遇する楽しさをあらためて感じています。いろいろな人からお祝いメールなどをいただきましたが、皆、元気に仕事も子育てもしているようで頼もししい限りです。情報によれば、来年あたり片山(旧姓初沢)さん主催の同期会の計画があるそうなので楽しみです。

(朝比奈(旧姓金子) 真由美)

循環器領域に貢献する。

医療用医薬品

トーアエイヨー株式会社

東京都中央区京橋3-1-2

研究所／大宮・福島 工場／宮城・福島

支店・営業所／全国23ヶ所



株式会社 常磐植物化学研究所

〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158

TEL 0434-98-0007

ホームページアドレス

<http://www.tokiwaph.co.jp>

平成9年卒業

昨年は、伊藤誠君と内藤泰代さんの結婚式がありました。同じ大学を出て同じ会社同士、ステキです。お幸せに！また二次会では久しぶりに同期の皆さんと顔を合わせることができました。元気そうでなによりです。また集まれたらいいね。去年はあまり結婚のニュースはありませんでしたが、21世紀の今年はまたラッシュの予感が。次回にまたお知らせします。ちなみにまだ結婚の兆しすら見えない私は、仕事とサッカーに燃える日々です。

(伊藤 賢大)

平成12年卒業

学部を卒業して約1年が経過しました。卒後社会に出た者、また進学した者双方にとって新人なりの苦労も多かったと思います。しかし、これからが本番です。報われないかもしれない努力をひたすら続け、打ちのめされてしまうかもしれない正義を、歯を食いしばって貫くこと。そして何よりも、病気に苦しむ世界の人々の健康に貢献すること。2年目の私たちは、しっかりと胸に刻んで生きてゆかねばなりません。

(右京 芳文)

平成13年卒業

千葉大学薬学部の門をくぐり、早くも4年の月日が流れようとしています。卒業を目前にひかえ、各々個人が、自分の薬学生生活を振り返っていることでしょう。ここからは一人一人が、専門分野ごとに自分の力を試していく、そんな生活がはじまります。進学し、己の学問を追及していく者。一足先に社会へ出て行く者。自分の力を試す場所は様々ですが、この4年間に学んだ多くの事を生かし、活躍されることを期待しています。

(片桐 大輔)

平成13年度3年生

あっという間に学部生としての生活も折り返し地点を過ぎてしまいました。講義だけだった今までとは変わり、今年からはついに実習が始まります。これからはずっと忙しくなるでしょうが、その中にそれぞれの充実感を得られることでしょう。今年度中には進む研究室も決定します。この1年間、自分の将来を見据えながら、友人と共に頑張っていけたらと思っています。

(十河 総子)

支部だより

◎ 神奈川支部

【2001年・・・同窓会の年】

2000年は、次世紀への架け橋と同時に華やかな21世紀を迎えるための準備の年であったと位置づけ、我が支部は、昨年は同窓会の開催を見送ったところである。

本年後半に、新世纪幕開けの記念とすべき盛大な同窓会を開催する予定である。本県に関係される同窓各位多数のご出席をお願いする次第である。

(村瀬 一郎)

亥鼻会

平成5年1月に昭和15年卒岩城謙太郎様から千葉大学付属薬学専門部時代の青春の3年間を過ごした心の故郷と言える亥鼻校舎同窓生の会を開いたらとの提言があり、発起人会にて昭和10~26年卒の中、日本橋本町付近に勤務地の有る卒業生を中心に各クラス毎に連絡をとり合った結果、会長岩城謙太郎様、昭和13年卒の藤原栄一様がお世話役でスタートしました。その後毎回約30名位の出席者で会を重ね、昨春第15回から小生がお世話役とのご指示を戴き今日に至りました。第14回まで幹事役をされた藤原様には、大変几帳面に記録を残されておられ、引き継いだ者として感謝しております。発足8年ともなりますと次第に年長の方々の出席が少なくなり前回出席者の中では昭和15年卒の方が最年長でした。毎回講師をお招きして昼食後約1時間興味深いお話を聞き、その後一同和やかに歓談の時を過ごし閉会には薬学部専門部の校歌を合唱し次回を約して終わります。尚、長い間この会の発展に御尽力を戴きました藤原栄一様には昨年6月23日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(井上 富夫)

みのはな山岳会

2000年の山行は、前半は雨で一週間延期になったり登山中雨にたたられたりしたことがあった。特に7月の岩木山は、頂上では雨と霧で視界ゼロの状況であった。5月には山岳会の功労者故吉田智子さんの一周年忌墓参（浜松）を兼ねて、湯谷温泉泊明神山（愛知県）登山を計画し、この時は天候良好だった。後半はすべて好天に恵まれ、9月の日和田山行途中の巾着山では、ヒガンバナの最盛期に会い、12月のシダングロ山の頂上（写真）は、丹沢山系の素晴らしいパノラマを眺め

ることが出来た。

ここ数年参加者の年令分布が低い方へ移行して来て、るのはな中高年山岳会の色彩が徐々に塗り変えられつつあることは、たのもしい限りである。(西川 文雄)



お知らせ

萩庭標本データベース作成協力会から

第3回役員会が3月3日午後、薬学部会議室で行われた。概要は次の通り。

1. データベース作成済みのさく葉標本41,172点が、故萩庭名譽教授夫人節子氏から千葉大学に寄贈され(平成12年9月26日)、これに対して磯野可一学長から感謝状が贈られた(同年10月20日)ことが報告された。

2. 電子化機器の購入など会計報告が行われ、承認された。

3. 前号の本誌で本会への净財寄付をお願いしたところ、2月末日現在、薬友会員28名から計617,000円が寄せられたことが報告された。今後とも積極的なご寄付をお願いいたします。

振込先：第一勧業銀行喜多見支店

普通口座名 & 番号：萩庭標本 DB 作成協力会
内田尚子 152-1799400

4. 今後の作業：来年3月開催の日本薬学会(幕張)の電子データ公開を目指して、未整理標本約1万点のデータベース化および全標本(約5万点)の電子画像化。
(妹尾 修次郎)

薬友会より

平成13~14年 主な活動予定

- 13年5月 会報11号発行
7月 生涯教育セミナー
12月 役員会・常任理事会
- 14年5月 会報12号発行
7月 役員会・総会・生涯教育セミナー
12月 役員会・常任理事会

平成12年 活動報告

- 3月 新入生会案内(終身会員108名入会)
5月 会報10号発行
7月 役員会(32名出席)
第9回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催(千葉大学けやき会館)「2000年薬学の夢」(講師4名、参加者157名)
12月 役員会・常任理事会(42名参加)

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

- 1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。(現在50%加入)会員名簿を無料で配布します。
- 2) 寄付(1口2千円から受け付けております)。特に、終身会費が1万円であった皆様のご協力をお願い申し上げます。
- 3) 会報、名簿への広告掲載にも、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

各種委員会名簿

- 総務委員会 ○矢野 真吾、上田 志朗、小口 敏夫、
村上 泰興(S36)、野中 浦雄(S42)
石川 勉(アドバイザー)
財務委員会 ○上田 志朗、矢野 真吾、小口 敏夫
山形 真一、村上 泰興(S36)、
野中 浦雄(S42)
原 修(アドバイザー)
名簿委員会 ○小口 敏夫、矢野 真吾、上田 志朗、
村上 泰興(S36)、野中 浦雄(S42)
斎藤 和季(アドバイザー)
事業委員会 ○山本 恵司、上田 志朗、渡辺 敏子、
堀江 俊治、山形 真一、上原 知也、
大川 幸子(S32)、小川 通孝(S34)
千葉 寛(前委員長:アドバイザー)
会報委員会 ○今成登志男、上野 光一、柏木 敬子、
豊田 英尚、鈴木扶美子、鈴木 淳
(大学院生)、中村はるか(大学院生)、
小川通孝(S34)、加藤 文男(S47)、
角田範子(S52)
細川 正清(アドバイザー)
(○印:委員長)

千葉大学同窓会(仮称)設立の動き

千葉大学同窓会(仮称)準備委員会が発足し、その設立に向けて検討が重ねられてきました。設立の趣旨は千葉大学の各学部を基盤とする同窓会が連携し、大学全体の発展・会員相互の親睦・社会貢献に寄与する事業を行なうことです。本年度秋に設立が予定されています。

学部だより

2000年度 卒業生、修了生の進路

学部進学：52名（千葉大学大学院他）

就職：20名（三共2名、エスアールディー2名、その他）

その他：7名

修士進学：15名（千葉大学大学院）

就職：61名（グラクソ・スマスクライン4名、三共4名、大正製薬3名、ヤンセン協和3名、その他）

博士就職：9名

その他：9名

2001年度 薬学部入学者（86名）出身一覧

前期・後期日程入学試験合格者 75名

25名 東京都（日比谷3名、共立女子2名、女子学院2名、豊島岡女子学院2名、その他16校各1名）

16名 千葉県（東邦大学付属東邦4名、木更津3名、東葛飾2名、その他7校各1名）

8名 神奈川県（フェリス女学院2名、横浜共立学院2名、その他4校各1名）

8名 埼玉県（浦和第一女子3名、その他5校各1名）

6名 茨城県（土浦第一4名、その他2校各1名）

4名 愛知県（4校各1名）

2名 北海道（2校各1名）

1名 群馬県、静岡県、鳥取県、栃木県、広島県、山梨県

推薦選抜合格者 10名

4名 東京都（お茶の水女子大学附属、吉祥女子、東京学芸大学教育学部附属、駒込、各1名）

2名 千葉県（安房、千葉（県立）、各1名）

1名 岩手県（盛岡白百合学園）、群馬県（桐生）、埼玉県（熊谷女子）、福岡県（伝習館）

外国人留学生 1名

1名（フィジーより）

2000年度学会賞受賞

受賞月日	学会名・賞名	受賞者	受賞業績題目
平成12年6月27日	フォトポリマー懇話会・The Photopolymer Science and Technology Award	平野秀典 大森紀人 畠品之 津田穂	On the Origin of Photochemically Generated Protons in Polymethacrylate Films: A New Structure of PAG
平成12年7月24日	日本植物細胞分子生物学会・奨励賞	山崎真巳	アントシアニン生合成を中心とした植物二次代謝に関する分子生物学的研究
平成13年3月27日	日本薬学会・奨励賞	山崎真巳	アントシアニン生合成系を中心とした薬用植物二次代謝の多様性の解明とトランスジェニック植物への分子生物学的展開

2000年度主催学会

日程	学会名	場所	主催研究室・代表者
平成12年6月27日～30日	The 17th Conference of Photopolymer Science and Technology	千葉大学けやき会館	薬品物理化学研究室 津田穂
平成12年7月8日	第3回医薬品情報学研究会学術大会	千葉大学けやき会館	医薬品情報学講座 上田志朗
平成12年9月25日～26日	第7回免疫毒性研究会	千葉大学けやき会館	医薬品情報学講座 上田志朗

2000年度博士学位授与者一覧

甲号（博士後期課程）

氏名 論文題目

真鍋知史 「高等植物における含硫黄二次代謝産物分解系酵素の分子生物学的研究」

石原一寿 「生薬白芷エキスと西洋薬の薬物動態学的相互作用に関する研究」

小熊敏弘 「LC-MSによるグリコサミノグリカンの分析」

高峰 「抗癌剤メトトレキサートによる小腸粘膜障害に対するプロスタグランジンE₂誘導体の防御効果に関する研究」

小松 豊 「ウィルソン病動物モデルによるテトラチオモリブデートの銅除去機構の研究」

- 坂田かおり 「アンチザイムによる細胞内ポリアミン濃度の調節機序」
- 塩原 大和 「哺乳動物における無機ヒ素化合物代謝の種差とその機構」
- Sharmin Shahana
「ACROLEIN PRODUCED FROM SPERMINE MAY BE A MAJOR UREMIC TOXIN」
(スペルミンから産出されるアクロレインの尿毒素としての可能性)
- Sompornpailin Kanokporn
「MOLECULAR CLONING AND FUNCTIONAL ANALYSIS OF PFWD,
A PUTATIVE REGULATORY PROTEIN, ANTHOCYANIN BIOSYNTHESIS
FROM PERILLA FRUTESCENS」
(シソにおけるアントシアニン生合成制御因子 PFWD の分子クローニングと機能解析)
- 高橋 良樹 「ヒト尿および角膜上皮細胞由来プラスミノーゲンアクチベーターの精製とその特性」
- 田口 美緒 「ヒト *in vitro* 薬物代謝実験系の構築に関する研究—ヒト肝ミクロソーム代替法を目指して—」
- 富取 秀行 「原核・真核細胞におけるポリアミン輸送蛋白質に関する研究」
- 富松 敏 「薬物が及ぼすラット小腸グルコース輸送系の変化に関する研究」
- 中村 克宏 「バルス脱分極型イオンチャネルを用いたカルシトニンの経皮及び経粘膜投与に関する研究」
- 二木 類 「大腸菌呼吸鎖欠損株の生育と pH 調整」
- 不破三保子 「3-複素環置換インドールの合成と生物活性—マルテフラジン A の合成と絶対構造の決定」
- 山中 正道 「希土類金属をプロモーターとする新反応の開発」
- Lia Dewi Juliawaty
「The chemical studies on the constituents of *Cryptocarya idenburgensis* and *C. strictifolia* (Lauraceae) from Indonesia」
(インドネシア産クヌキ科植物 *Cryptocarya idenburgensis* 並びに *C. strictifolia* の含有成分に関する化学的研究)

乙号(論文審査)

- | 氏名 | 論 文 题 目 |
|--------------|--|
| (平成12年5月9日) | |
| 鈴村 邦治 | 「高脂血症治療薬フルバスタチンの抗酸化作用機序に関する薬理学的研究」 |
| 福葉 二朗 | 「新たな胃粘膜防御機構としてのカブサイシン感受性神経の研究」 |
| 本宮 光弥 | 「Na ⁺ -グルコース共輸送担体阻害薬の開発研究」 |
| (平成12年8月24日) | |
| 太田 貞人 | 「Cefditoren Pivoxil の非晶質状態のキャラクタリゼーション」 |
| 森部久仁一 | 「Encapsulation characteristics and mechanism of encapsulation of polyene macrolide antibiotics in liposomes」 |
| (平成13年1月30日) | |
| 三橋 弘明 | 「呼吸器疾患病態形成における好中球プロテアーゼの関与と各種呼吸器疾患モデルにおける好中球プロテアーゼ阻害剤の有効性に関する研究」 |
| 豊田亜希子 | 「グリコサミノグリカンの微量分析法の開発と無脊椎動物を用いた機能解明への応用」 |
| 中山 祐治 | 「海洋細菌由来ナトリウム輸送 NADH キノンリダクターゼ複合体の構成成分に関する研究」 |
| 畑 品之 | 「生命分子科学に関する研究—特に cytochrome P-450について—」 |

職員の異動(2000. 6 ~ 2001. 4)

平成12年6月1日	花澤 良助 手 採 用 (微生物薬品化学)
山口 直人 教 授 採 用 (膜機能学、静岡県立 大学薬学部より)	平成13年4月1日 柿沼 喜己 教 授 异 任 (室蘭工業大学へ)
友安 俊文 助 手 採 用 (微生物薬品化学)	西田 篤司 教 授 异 任 (薬品合成化学)
細川 正清 助 教 授 异 任 (薬物学)	上野 光一 教 授 异 任 (高齢者薬剤学)
柳瀬 泰宏 助 教 授 异 任 (生物薬剤学)	佐藤 信範 助 教 授 転 任 (医薬品情報学、厚生 労働省より)
平成12年8月31日	星野 忠次 助 教 授 异 任 (薬品物理化学)
望月 真弓 助 教 授 辞 職 (医薬品情報学)	中村辰之助 助 教 授 异 任 (分子細胞生物学)
平成12年9月30日	柏木 敏子 助 教 授 异 任 (病態生化学)
小原 康治 助 教 授 辞 職 (微生物薬品化学)	奥山 恵美 助 教 授 异 任 (活性構造化学)
平成12年11月1日	西村 和洋 助 手 异 任 (病態生化学)
友安 俊文 助 教 授 异 任 (微生物薬品化学)	高屋 明子 助 手 採 用 (微生物薬品化学)
花澤 良助 手 採 用 (微生物薬品化学)	
平成13年3月31日	
中川 昌子 教授停年退官 (薬品合成化学)	望月 真弓 北里大学薬学部へ 9月1日
津田 積 教授停年退官 (薬品物理化学)	小原 康治 東京理科大学薬学部へ 10月1日
佐藤 陽美 教務職員辞職 (薬品分析化学)	

第10回千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

平成13年度の千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナーを、千葉大学構内正門脇の大学ホール「けやき会館」にて開催いたします。今年の主題として「「ストレスを癒す」一心と体のコントロール」を選びました。21世紀を迎えた今日、社会の急速な変化と既存の価値観の間に大きな摩擦が発生し、私達はストレスフルな環境にさらされています。それぞれの分野でユニークな活躍をされていらっしゃる先生方のご講演から、自らのストレスの問題も含めて理解を深めることと存します。

なお、一昨年度からの特別企画として、いくつかの卒業年次の皆様を「生涯教育セミナー」にご招待しております。（ミキサー参加費につきましては別途徴収させていただきます。）本年のご招待は下記に有りますご案内のとおりです。

どうぞこの機会に、多くの皆様がセミナーにご参加下さいますようご案内申し上げます。

- 1) 主題 「ストレスを癒す」一心と体のコントロール
- 2) 演題と講師
薬友会会长挨拶 五十嵐一衛（千葉大学大学院薬学研究院長）
 1. メンタルヘルスにおけるストレスの役割
山内 直人 先生（千葉大学医学部附属病院）
 2. 基礎研究者の立場から
ストレス社会に対応した新しい抗うつ、抗不安物質を求めて 武田 弘志 先生（東京医科大学）
 3. 新しい抗うつ薬 SSRI フルボキサミン
門澤 弘行 先生（明治製薬㈱）
 4. 心とからだを癒す香り
山本 芳邦 先生（山本香料㈱）
 5. 宮木高明記念セミナー
脂質と薬
井上 圭三 先生（帝京大学薬学部長）
- 3) 日時：平成13年7月20日（金）海の日
13:00-17:00 生涯教育セミナー
(宮木 高明記念セミナー)
- 4) 場所：千葉大学大学ホール（けやき会館）
千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内
(JR西千葉駅北口より南門経由で正門方向へ徒歩7分。または京成電鉄みどり台駅より正門経由で徒歩6分)

- 5) 参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振込み下さい。
(参加予約締切：平成13年6月29日（金）
郵便振替口座 00150-5-551796 千葉大学薬友会)
- 6) セミナー参加費：2,000円（予約時） 3,000円（当日）
- 7) ミキサー参加費：2,500円（予約時） 3,000円（当日）
- 8) 本セミナー参加者には日本薬剤師研修センターより3単位が認定されます。
- 9) 連絡先：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学薬友会事業委員会（担当 山本 恵司）
TEL 043-290-2937



生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒後35年の1966年（昭和41年）、卒後45年の1956年（昭和31年）、および1935年（昭和10年）以前に卒業された方々をご招待致します。該当する皆様は、当日受付にてお申し出下さい。この機会に是非母校に足を運ばれ、その変貌振りをご覧頂くとともに、旧友と久しぶりのひとときをお楽しみ下さい。

編集後記

希望と期待、そしてIT革命の掛け声で幕が開いた21世紀ですが、社会全体はバブル経済の崩壊で何となく元気が出ない状況にあります。この中で本学部は五十嵐会長の挨拶や特集でお知らせしましたように、全国の新制国立大学の先頭を切って大学院の改革を計画し、4月1日から第一歩を踏み出しました。その成果が見えてくるのは何年かになりますが、より実り多いものとするために医・薬・看護の医療系学部の結束が問われることになりました。一方、本会報は大学と会員の紹としての役割を果たしてきましたが、インターネットの普及などによって効率的な連絡網に切り替えるべきだと意見がありました。（千葉大学薬学部ホームページ：<http://www.p.chiba-u.ac.jp/>）しかし、まだ時期早尚との声もあり、今回は若い編集委員の方々が懸命に経費軽減に努力して発行に漕ぎつけました。ここに深く感謝する次第です。

会報委員

今成登志男（委員長）、上野光一、柏木敬子、豊田英尚、鈴木扶美子、鈴木 淳（院生）、中村はるか（院生）、小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、細川正清（アドバイザー）